

## 茨木みどりヶ丘病院における課題・目的について(まとめ)

### 【三島医療圏における年次別推計人口について】

- 1 三島医療圏の人口については、2014年10月からほとんど減少はなくほぼ横ばい状況となっている。また、2018.10月から2019.10月への人口増加伸び率についても変化はみられていない。
- 2 市町別で人口の変化については、高槻市が減少傾向にあり、茨木市については、横ばい状態、摂津市と島本町で増加が少し見られる程度ある。
- 3 その中で高齢化が進み救急患者が増加している現状の中で、当院は、地域貢献を施設方針として、救急医療の強化充実を進め、市外流出患者を受入れて救命率の向上を図っている。

### 【患者の流出について】

#### 〔循環器科〕

- 1 三島医療圏については、2019年に年間6645件の循環器疾患の患者が三島医療圏内の医療機関から退院しており、それを2019年10月の市町別の人口にて患者数を按分して算出すると下記のとおりとなる。

高槻市	3,094 人
茨木市	2,513 人
摂津市	764 人
島本町	274 人

- 2 茨木市については、2513人の循環器疾患の推計患者が存在することになるが、(2019年)茨木市におけるMDC別患者数の状況を分析システムで抽出すると326人しか茨木市の医療機関で受け入れられておらず、残りの2187人の推計患者が茨木市以外の市町に流出していることが考えられる。
- 3 2019年以降の茨木市における循環器のMDC別患者数の推移については、2019年を100%とすると2040年には130%まで増加すると想定される。
- 4 茨木みどりヶ丘病院は、2019年の時点をとらえると循環器の患者を受け入れる体制が整備されていなかったために実績がない状況であった。  
しかし、2021年には、ハード面としてアンギオ装置が導入され、ソフト面では、循環器科常勤医師の配置が実現し、体制が整備され、茨木市からの流出患者を受け入れることが可能となる体制に強化されてきた。

#### 〔脳神経外科〕

- 1 三島医療圏については、2019年に年間3418件の神経疾患の患者が三島医療圏内の医療機関から退院しており、それを2019年10月の市町別の人口にて患者数を按分して算出すると下記のとおりとなる。

高槻市	1,592 人
茨木市	1,293 人
摂津市	393 人
島本町	141 人

- 2 茨木市については、1293人の神経疾患の推計患者が存在することになるが、(2019年)茨木市におけるMDC別患者数の状況を分析システムで抽出すると275人しか茨木市の医療機関で受け入れられておらず、残りの1018人の推計患者が茨木市以外の市町に流出していることが考えられる。

- 3 2019年以降の茨木市における神経のMDC別患者数の推移については、2019年を100%とすると2040年には127%まで増加すると想定される。
- 4 茨木みどりヶ丘病院は、2019年の時点をとらえると脳神経外科の患者を受け入れる体制が整備されていなかったために実績がない状況であった。  
しかし、2021年には、ハード面としてアンギオ装置が導入され、ソフト面では、脳神経外科常勤医師の配置が実現し、体制が整備され、茨木市からの流出患者を受け入れることが可能となる体制に強化されてきた。

#### 【課題の解決について】

- 1 茨木市における循環器患者は、市内で対応できず茨木市以外に大半が流出しているため、茨木市(茨木みどりヶ丘病院)で対応できる体制づくりが必要である。  
そのため、循環器疾患はもとより2040年まで増加傾向にある患者を受け入れられる体制整備必要であり、最低でも下記の項目については早急を実現する必要があると考え進めている。
  - ① ・特定集中治療室に準ずる病室としてHCU機能を有する病室が早急に必要であること。
  - ② ・緊急を要する循環器疾患並びに脳神経外科患者また、それに準ずる患者に対応ができるチーム(スタッフ)の増員が必要であること。  
( 医師、看護師、MEなど ) 既にMEについては3名増員している。
  - ③ ・一般病床が不足するため、将来的には増床の検討が必要であること。
  - ④ ・病室の専有面積見直等の療養環境充実・手術室機能充実などが実現できるように建替整備を進めること。
  - ⑤ ・看護スタッフ等の増員を図り、7対1入院基本料を取得すること。
- 2 ちなみに救急患者の受け入れについては、令和3年度で月平均110件から令和4年10月までで月平均194件と1.8倍伸びている。